

CQ1-1（経口補液）PICO 表、SR 表

SC-4：PICO 表

SR-1：文献検索式

SR-2：文献検索フロー

SR-3：二次スクリーニング一覧

SR-4：引用文献リスト

【SC-4 CQ1-1（経口補水）の設定】

スコープで取り上げた重要臨床課題（key clinical issues）				
1968年、排便量が多い患者も含めたコレラ患者に対して、経口補水液の有効性が明らかになり、1975年には世界保健機構(WHO)が経口補水療法の最初のガイドラインを発表した。以降、経口補水療法に低浸透圧のものが採用されるようになり、各国ガイドラインにおいても経口補水療法は第一選択の治療とされている。脱水改善において経口補水療法の効果は疑いの余地はないが、国民皆保険で医療アクセスの良い日本において経口補水療法の有用性について検討の余地がある。				
CQの構成要素				
P (Patients, Problem, Population)				
性別	指定なし			
年齢	<input type="checkbox"/> 指定なし・（ <u>小児：18歳未満</u> ）			
疾患・病態	重症脱水を除く急性胃腸炎（ウイルス・細菌等の病原体問わず）			
地理的要件	特になし			
その他	特になし			
I (Interventions)		C (Comparisons, Controls, Comparators)		
経口補水療法		経静脈輸液療法		
O (Outcomes) のリスト				
	Outcomeの内容	益か害か	重要度	採用可否
O ₁	脱水の予防	益	7 点	○
O ₂	脱水改善	益	8 点	○
O ₃	救急受診回数の減少	益	6 点	○
O ₄	嘔吐症状の増悪	害	6 点	○
O ₅	下痢症状の増悪	害	6 点	○
O ₆	胃腸炎関連合併症の頻度増加	害	6 点	○
作成したCQ				
小児の感染性胃腸炎による脱水症の治療に経口補水療法は初期治療として推奨されるか？				

【SR-1 データベース検索結果】

タイトル：	小児消化器感染症ガイドライン 経口補水療法
CQ：1-1	小児の感染性胃腸炎による脱水症の治療に経口補水療法は初期治療として推奨されるか？
データベース：	Pubmed
日付：	2023/7/10
検索者：	十河、小松、和田、福田

#	検索式	文献数
1	acute gastroenteritis	39,838
2	infectious gastroenteritis	12,670
3	acute diarrhea	20,877
4	#1 OR #2 OR #3	65,105
5	oral rehydration therapy	127,840
6	#4 AND #5	2,367
7	intravenous therapy	352,177
8	fluid infusion	24,463
9	intravenous fluid therapy	13,999
10	#7 OR #8 OR #9	368,974
11	#6 AND #10	544
12	#11 Filters: Child: birth-18 years	370
13	#12 Filters: Human	369

【SR-1 データベース検索結果】

タイトル：	小児消化器感染症ガイドライン 経口補水療法
CQ：1-1	小児の感染性胃腸炎による脱水症の治療に経口補水療法は初期治療として推奨されるか？
データベース：	Cochrane Library
日付：	2023/7/10
検索者：	十河、小松、和田、福田

#	検索式	文献数
1	(acute gastroenteritis):ti,ab,kw	810
2	infectious gastroenteritis	396
3	acute diarrhea	6,067
4	#1 or #2 or #3	6,660
5	oral rehydration therapy	920
6	intravenous therapy	56,156
7	fluid infusion	4,218
8	intravenous fluid therapy	3,650
9	#6 or #7 or #8	59,051
10	#4 and #5 and #9	167
11	child or infant or newborn or adolescent	326,321
12	#10 and #11	159

【SR-1 データベース検索結果】

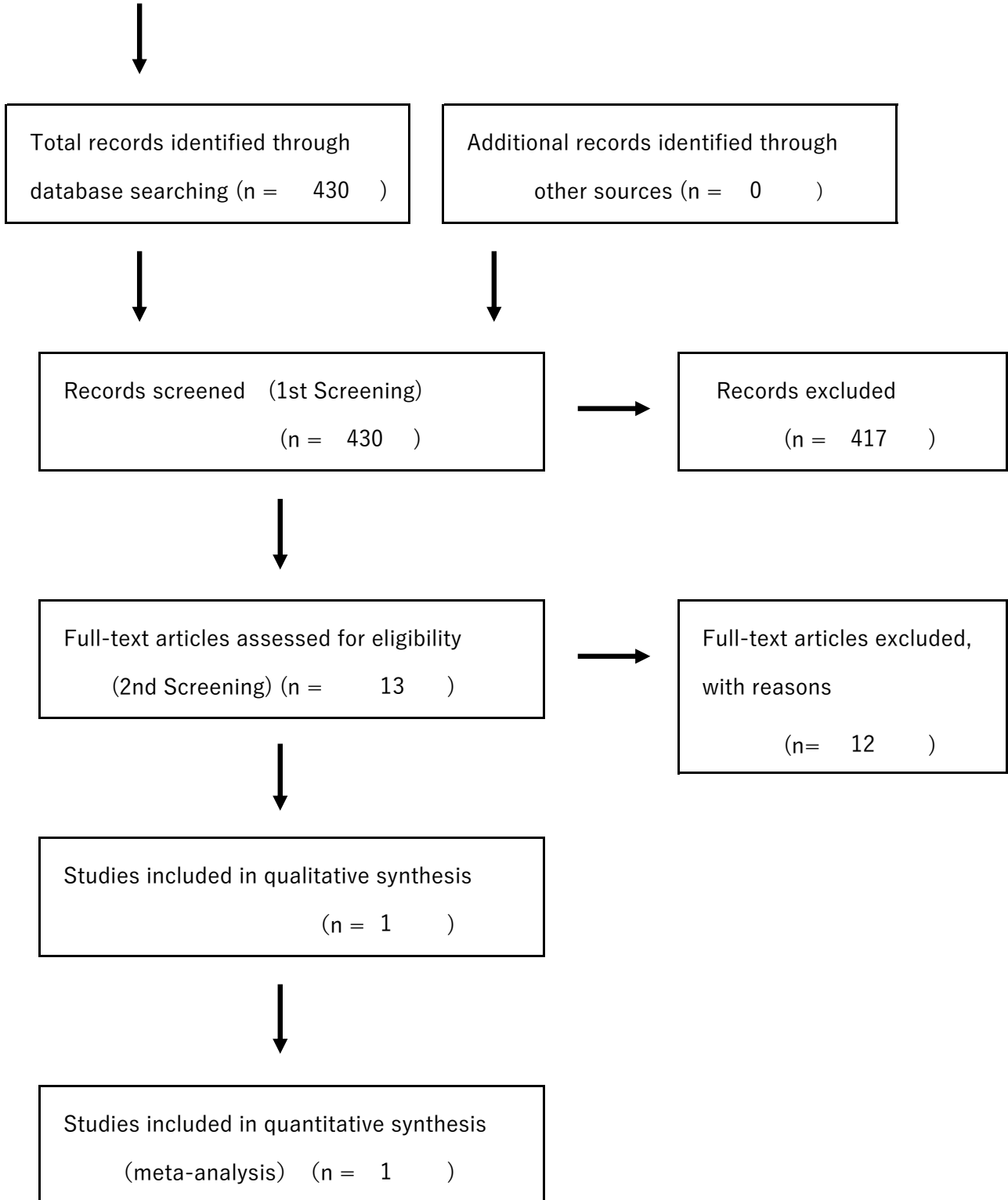
タイトル：	小児消化器感染症ガイドライン 経口補水療法
CQ：1-1	小児の感染性胃腸炎による脱水症の治療に経口補水療法は初期治療として推奨されるか？
データベース：	医中誌
日付：	2023/7/10
検索者：	十河、小松、和田、福田

#	検索式	文献数
1	胃腸炎/TH	138,283
2	経静脈輸液/AL	39
3	静脈輸液/AL	150
4	#2 or #3	150
5	経口補水療法/AL	442
6	経口補液/AL	127
7	#5 or #6	567
8	経口輸液/AL	54
9	#7 or #8	619
10	#1 and #4 and #9	5
11	(#10) and (PT=会議録除く)	5
12	(#11) and (CK=新生児,乳児(1~23ヶ月),幼児(2~5),小児(6~12),青年期(13~18))	3

【SR-2 文献検索フローチャート】

PubMed	CENTRAL	医中誌	Embase	PsycINFO®	CINAHL	Others()
369	159	3				

7/26/2023



【SR-3 二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究デザイン	P	I	C	O	除外	コメント
Alam 2009	RCT	コレラ感染により重度の栄養失調を呈した6～36か月の児	経口補水療法 (①ブドウ糖ORS、②ブドウ糖+アミラーゼ耐性でんぷんORS、③米ORS)	選択したものと別 の経口補水療法	便秘泄量	除外	経口補水療法 vs. 経静脈輸液でない
Atherly-John 2002	RCT	急性胃腸炎発症1週間以内の3か月～17歳	経口補水療法	経静脈輸液	救急外来滞在時間	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Gremse 1995	RCT	下痢発症後5日以内の2～24か月の入院患者	経鼻チューブによる持続補水療法	経静脈輸液	治療の失敗 (持続する嘔吐により経静脈輸液を要する)	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Hartling 2006	Systematic review	なし	なし	なし	なし	採用	ORT vs. IVTのCochrane review
Listernick 1986	RCT	下痢発症5日以内の3～24か月の外来患者	経口補水療法	経静脈輸液	治療の失敗 (12時間以内に脱水を改善できない、嘔吐により十分な経口接種ができない)	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Mackenzie 1991	RCT	下痢発症7日以内の3～36か月の入院患者	経口補水療法	経静脈輸液	治療の失敗 (嘔吐の持続が強く小児科医が脱水の改善が困難と判断、入院後2%以上の体重減少、循環不全)	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Mosegui 2019	Comparative study	重度の脱水のない5歳以下の急性胃腸炎患者	経口補水療法や経静脈輸液の組み合わせ5種類 (治療例1: 自宅で経口補水療法を行い、脱水の改善なければ専門的な経口補水療法を受ける。それでも改善なければ経静脈輸液。)	選択したものと別 の治療法	質調整生存年 (QALY)	除外	・5段階に分けたORTとIVTの組み合わせの費用対効果を調査したものであり、今回のCQとは異なる
Nager 2002	RCT	嘔吐・下痢発症7日以内の3～36か月の外来患者	経鼻チューブによる持続補水療法	経静脈輸液	治療の失敗 (3時間治療後の経口摂取困難、平均尿量0.5 mL/kg、経鼻チューブでの経口補水後の3回の嘔吐)	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Pulungsih 2006	RCT	コレラ感染による下痢を呈した12～60歳の入院患者	低浸透圧 (245 mmol/L) 経口補水液を用いた経口補水療法	標準浸透圧 (311 mmol/L) 経口補水液を用いた経口補水療法	便秘泄、経口補水液の摂取量、下痢の持続期間など	除外	・対象患者に成人を含む。 ・通常浸透圧ORS (311 mmol/L) と低浸透圧ORS (245 mmol/L) の比較であり、経口補水療法 vs. 経静脈輸液の比較ではない
Raghupathy 2006	RCT	急性下痢のある6か月～3歳の小児	アミラーゼ抵抗でんぷんを添加したWHOの標準グルコース経口補水液による経口補水療法	WHOの標準グルコース経口補水液による経口補水療法	経口補水液の消費量、最初の24時間での便量など	除外	WHOの標準グルコース経口補水液にアミラーゼ抵抗でんぷんを添加したものとしなかったものの比較であり、経口補水療法 vs. 経静脈輸液の比較ではない
Santosham 1982	RCT	急性胃腸炎発症5日以内で、5%以上の脱水のある入院患者	経口補水療法	経静脈輸液	治療の失敗 (経口補水療法の拒否、8時間後の脱水所見の残存、維持治療中の脱水所見の再燃)	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Tamer 1985	RCT	急性腸炎および10%以内の脱水がある3～33か月の入院患者	経口補水療法	経静脈輸液	入院期間	除外	Cochrane 2006で参照されているため
Vesikari 1987	RCT	急性下痢による60か月未満の入院患者	経口補水療法	経静脈輸液	入院期間	除外	Cochrane 2006で参照されているため

【SR-4 引用文献リスト】

	文献ID	
採用論文	Hartling 2006	Cochrane Database Syst Rev. 2006;2006(3):CD004390.

【SR-4 引用文献リスト】

	文献ID	
不採用論文	Alam 2009	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2009;48(3):318-27.
	Mosegui 2019	J Infect Public Health. 2019;12(6):816-821.
	Pulungsih 2006	J Health Popul Nutr. 2006;24(1):107-12.
	Raghupathy 2006	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2006;42(4):362-8.

【SR-4 引用文献リスト】

	文献ID	
その他の引用論文 (Cochrane SR- Hartling 2006内で引 用されている)	Atherly-John 2002	Arch Pediatr Adolesc Med. 2002;156(12):1240-3
	Gremse 1995	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 1995;21(2):145-8.
	Listernick 1986	Am J Dis Child. 1986;140(3):211-5.
	Mackenzie 1991	BMJ. 1991;303(6799):393-6.
	Nager 2002	Pediatrics. 2002;109(4):566-72.
	Santosham 1982	N Engl J Med. 1982;306(18):1070-6.
	Tamer 1985	J Pediatr. 1985;107(1):14-9.
	Vesikari 1987	Acta Paediatr Scand. 1987;76(2):300-5.